
夜尿

催吐剤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜尿

【Nコード】

N4101P

【作者名】

催吐剤

【あらすじ】

本作品は読書時に強い不快感を生じる可能性があります。

タロウは夢の中で、何か生暖かなものが股間を中心に広がっているの感じ、目を覚ました。

まだ夜中だった。カーテン越しに射し込む街灯の灯りに照らされた室内は薄暗く、ほとんど何も見えなかったが、手探りで布団を触ると、やはりぐっしりと湿っているのがわかった。

タロウは“またもらってしまった”と直感した。激昂する母の顔や怒鳴り声が脳裏に浮かび、タロウは小さく身震いをする、チリと右隣の布団を見た。

そこには妹が寝ていた。すやすやと眠る妹の寝顔を眺めていると、なんとか朝までに妹と自分の布団を交換できないものかとタロウは考えつき、同時にそのようなことを考えたことに恐怖を感じた。タロウは妹に罪を擦り付けることには何も感じなかった（妹はまだ幼く、それほど怒られることもないだろう）。が、“それ”を実行するときのことを考えると心臓がドクンツと大きく鳴り、不安で胸がいつぱいになった。

やるのか、本当にやるのか、やりたくはないが思いついてしまった以上はやらなければならぬだろう、なぜ目覚めてしまったのだろう、何も気づかずに朝まで寝ていればこのようなことに思い悩む必要などなかったはずなのに、本当にやるのか？ いや、やるしかない、やれ、やれ、やれ！ やれ！

しかし、とタロウは考えた。苦勞して布団を交換したところで、下の畳が濡れていたら元も子もない。罪を妹に擦り付けようとしたことが発覚すれば、余計に怒られることになるだろう。

ともかく、まずは被害状況を確認しなければならない。幸い、タロウの左隣で寝ているはずの母はまだ起きてはいないようだった。ひとまず今やるべきことが決まったタロウは、布団をガバツと捲り上げた。

と、突如として重みのある何かがボタバタボタと降り注ぎ、タロウの腿を激しく叩いた。

驚いたタロウが上を見ると、天井の梁に結び付けられた太い縄から母がぶら下がっていた。

糞尿の臭いの立ち込める中、タロウは安堵した。

心配はなくなった。

漏らしたのは母だったのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4101p/>

夜尿

2011年4月6日21時06分発行